

介護老人保健施設しおさい

症 例 概 要 入居者：80代 女性 要介護2

利用期間：令和4年 10月～長期入所を利用

病 名：下行結腸癌、便秘症

既往歴：食思不振、尿路感染症

経過：在宅にて令和4年8月に食欲不振が続き、その後立ち上がれなくなり、救急にて受診。尿路感染との診断で入院していたが、入院中COVID-19発症。症状改善はしたが、ADLの低下のため、在宅での生活は困難となり当施設入所となる。

入所当初は帰宅願望や不穏な状態が常に続いており、何事にも興味を示すことはなかったが、根気よく職員や他ご利用者と関わる環境に寄り添うことで、日常生活や行事に参加していただくようになり生活に活気が見られてきた症例。

内 容

入所当初は帰宅願望が見られ、話す内容も同じことを繰り返したり、不穏な状態が常に続き、介護拒否等もみられたため、なかなか施設での生活に馴染めない日々が続いておりました。

少しでも不穏な時間を無くすことはできないかと他職種共同でカンファレンスを繰り返し、昔学校の教員に従事されていたとのことで、まずは昔話や書き物などの提供をして少しでも不穏な状態が軽減できないかと様々なことを提供し続けました。最初は興味もなく「そんなことは良いから」と拒否もみられましたが、関りを増やし、寄り添うよう声かけをしていくことで、徐々に興味を持ち始め、不穏な時間が少しずつ軽減していきました。

そこから徐々に日常的な日課に参加する機会が増え、嚥下体操やラジオ体操、レクリエーション等にも参加していただけるようになり、ご利用者の生活にメリハリが出てきました。

その後、ご利用者が入所されて初めての行事となる運動会においては選手宣誓を依頼すると最初は遠慮し断っていたご利用者ですが、当日になると見事大役を成し遂げ、その後もチームリーダーとして元気に声を出し、行事全体を盛り上げて下さいました。

認知症状の進行や周辺症状により、不穏な時間を過ごしておりましたが、今では当施設での生活を他のご利用者や職員と一緒に家族のように楽しんでいただいております。本来のご本人らしさをどのご利用者も引き出せ、取り戻せるよう愛情を持って親身な対応を心掛けていきたいと思っております。